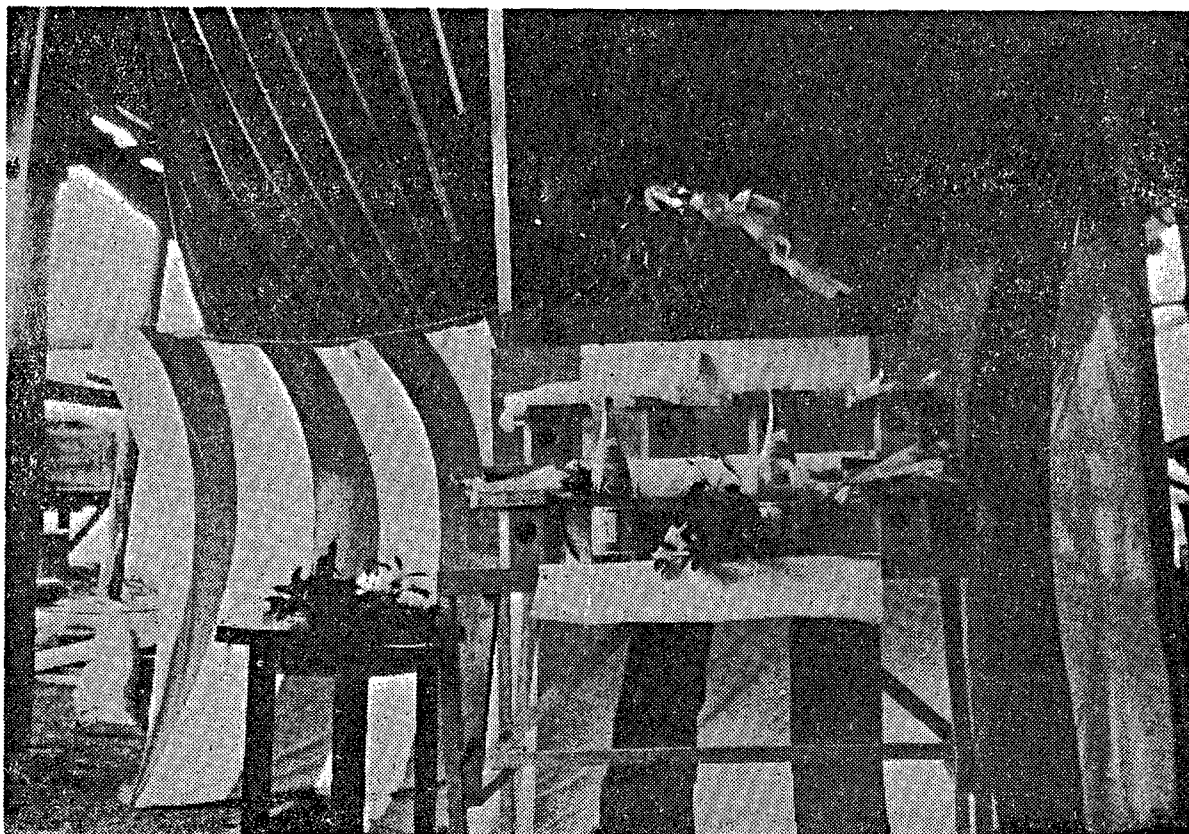


柱

水稲

第卅三号昭和卅四年五月十五日発行
毎月十五日一回発行 一部 十円
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

五 月



(さばはね釣漁船、第一兵庫丸の起工式)

兵庫県漁業協同組合連合会
財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

さばはね釣漁船乗組員の募集

漁村青年の外海への雄飛を

すでに新聞紙上等で御承知の如く兵庫県並びに業界が一致協力して不振沿岸漁業の打開並びに漁業転換の対策として、兵庫県漁業株式会社を設立しその第一歩をふみ出したのであります。事業計画としまして先ず約一〇〇屯のさばはね釣漁船「第一兵庫丸」を建造して東支那海に雄飛し、本県漁民の外海出漁の突破口とするため、目下福岡の徳島造船所で着工しており本年九月頃完成する予定であります。第一兵庫丸は「さばはね釣漁船」として第一級の設備をもっています。すなわち主機関は三三〇馬力のディーゼルを備え、補機関も四八馬力の強力なディーゼルエンジンであり、冷凍機、ロラン、魚探、無線等も一流メーカー品を装備してあります。此のように事業計画並びに漁船建造も着々と進行しつつあるのであります。船を動かす、漁獲を行う乗組員の問題があります兵庫県に於きましては何分初めての事業でありますので漁撈方法、漁場各船の連絡等未知の問題が多々ありますため愛媛県三瓶船団に加入し、

尚関係書類の様式については各々の漁業協同組合へお送り致してあります。

農林漁業団体職員共済の

事務取扱について

兵庫県漁業協同組合連合会

船長、機関長、漁撈長、漁撈指導者等を先輩である愛媛県に依頼し、本県乗組員の指導養成をして載く予定で計画を進めております。そこで本県からも将来の「水産兵庫」を担う漁村の青年諸君が、兵庫県の漁業発展の最先端を切るのだと言う自覚と将来指導者となると言う誇りを持って乗組んで戴きたいと思っております。応募資格の一応の標準としましては身体強健、意志強固な年齢三〇才以下の方と言う線で行いたいと考えておりますので、乗組を希望されます方はそれぞれの所属組合を通じて左記書類を添付の上五月二十日まで兵庫県漁業株式会社へ必着致しますようお願い下さい。

(関係書類)

- 一、略 歴
- 二、乗組希望の動機
- 三、家族の状況(本人を含めて)
- (送り先)

神戸市兵庫区新在家町一二三
 県立水産会館 県漁連内
 兵庫県漁業株式会社

(共済組合事務所の住所)
 東京都千代田区永田町一ノ一七
 農林漁業団体職員共済組合

目次

さばはね釣漁船乗組員の募集	1
農林漁業団体職員共済の事務取扱について	1
漁業今昔	(1)
さんまの巻	(1)
平岡安民	2
富島	
わかめブームに湧く	
水 試	3
スロー運転と	
シリンドー磨耗	
杉本技師	4
わかめの採苗と	
養殖について	
第五回水産業改良普及研究発表全国大会より	6
昭和三十四年一月、二月中の海面漁獲量の概要	
県水産課	9

漁業今昔

さんまの巻 (1)

平岡安民

今の日本の海にどんな魚がどれくらい居るかということは大体はつきりして居り、未開発の資源などというものは無いといつてもよからう。

それどころか残された貧しい資源にたいして手を代え品を換えてどうして多くとるかに血まなこになつて

いるありさまである。

これが三十年位前になると大分ゆとりがあつた。殊に朝鮮沿岸などは誰もとり手のないような魚がザラに居たもので日本の漁夫がこれを着々と開拓して大きな産業に育てた。という久保田発言のように韓国の年から文句が出ようと思う向もあるが、実際は日本人の仕事すべてを悪視する考え方は李承晩一味の限られた少数の者だけにあるので、彼国の人々も共にこの事業に従い等しくこの恩恵をうけてきたことを自ら認めてゐる。

余談はさておき、神功皇后の昔から迎日湾の砂泥の中に眠っていた赤貝などもまさに掘り出しものであつ

た。二個で一KGもあるとういう見事なこの貝が隙間なく棲息していた昭和二年頃私がひらめをとろうと文鎮漕をやつたことがあるが、物の十間も引かぬうちに針という針に赤貝がかかつてしまい、魚がかかるところでなく、あきらめてこの仕事を見切つたことがあつた。この貝を見て故老のYさんは

「これは血貝というて、とても人が食えるような代物ではないのじゃ」といつて間抜けな奴だといわんばかりに笑いとばした。試みに煮てみたが、なるほど歯が立たぬほど堅い調理法などもちろんわからぬから捨ててしまった。

その後あなご繩をやりに来た南鮮の人が繩糸にはさまつて多数に上つてくる赤貝を見て、これはすばらしいものが居るぞと喜んで早速貝桁をやり出した。そして連日五百個も千個も取つて東京へ送りモリモリと稼いだのである。この特大型の赤貝が東京で〆当り四円も売れていようと

は夢にも知らぬ我々は
「物好きな人も居るものだ。多分あの大きな貝殻がいくらかに売れるのだろう」

くらしいのことでむしろあざ笑つていたのである。極力秘密にしていた売り値段が、人々にかぎつけられて我も我もと赤貝ブームが現出したがそういつまでもうまいことがあるわけはなく、忽ち取りつくされてしまった。

日本海の大羽いわしなども大正十二年関東震災の秋に異常気象による寒流の襲来で死んだいわしの姿を見たのが初まりであつたようだ。長い海岸線一帯に土堤を築くほど大量のいわしが打ちよせ、航行中の鮮魚運搬船が沖で流れているいわしをすくい上げて忽ち満載して阪神へ上り巨利を博したということだ。この年はじめて廻遊してきたという説もあるが昔から居つたのを気付かなかつたのだというのが本当の様でもある。

その後数年にして、二百統に余る旋網によつて一漁季一統五千屯という大量の漁獲を上げるようになったいわしがどうして人々の耳目に触れることなく悠々と遊いでいたが、おどろくべきことである。

いわしのように大きなものではな

いが日本海のおさんまも相当の量をもつもので、これは現在壱岐で小規模の刺網によつて漁獲されるだけで殆んど野放しの状態である。

昭和六年春秋は小さな定置網を迎日湾口の竜汗洞という所に入れていた。一日機船で漁場に向い、船を網の台に繋ぎ、網舟に乗り移つて網起しをした。やがて魚を積んで機船にもどつて来ると、折柄無風のなぎであるのに船の中で大雨の降るような音がしている。いぶかりながらも、とりあえず船に乗り込んで先ず活間(活魚槽)をあけて見た。その途端アツという叫び声のどを衝いて出思わず一二歩後すさりをした。活間の中には小さな魚が文字通り水がなくなるほどギッシリつまつて居り、それがしぶきを上げて沸騰しているのである。二三尺もはね上つて、数十尾はたちまち甲板の上でピチピチやつている。この小魚がさんまであつた。

栓を抜いて水はためられてあるが魚は一尾も居らぬ筈の活間の中に魚が満ちているのであるから、夢を見ているのではないかと一瞬わが視覚を疑つたほどである。しかし何でもよい、漁師は魚を見たらとりたくなるのが本能のようなものだ。手もと

にあったたも網でどんどんすくい上げにかかった。網船の漁夫たちも乗り込んできて喚声を上げながらめいめいすくうのであるが、ぶりやひらめをすくうたも網では網目が粗いで大部分抜け落ちてしまう。それでもこの愉快なスポーツが数分間つづくうちに二三十メのさんまが箱の中へ収容された。

ほっとして、さてこのさんまがどういう手段によって、舟のあきすねらいをやったのけたかということを考えて。しかしこれは考えねばならぬほどむづかしい問題ではなかった海藻などの漂流している蔭に集まってきた、そのすきまを抜けながら産卵するというこの魚の習性が、彼等を船の蔭に集め、そして栓穴を抜け通らせたに過ぎなかったのである。

ところがさんま君にとって不運なところでは、その抜け出た所が船の中であつたのである。そして暗い船の中へはいってみると栓穴が白く光っていて恐ろしくて近付けない。次々といはいて来る魚は一尾も出ることができず、ついには水がなくなるほど密集して苦しくなつて騒いでいたという次第。しかしわれわれもこの小さな魚の無智をわらうことはできないだろう。人間以上に賢いものから

人間共のむなしあがきを見たら、まさにこの通りであろうから。帰港して魚商人に交渉したが、こんな魚は見たことがなく多分買手にならうからダメだという。

「これは何という名の魚か」と訊くので

「さんまというて、さよりの兄弟分みたいなものだ」と説明すると

「なるほどさよりに似ている。日本さより(イルボン、コンチ)か」とうなずいている。とにかく日本から迷ってきたもので朝鮮の海には居らぬ魚ときめているのである。

それから何年かの後に、さば延縄の寸七の大きな鉤に何尾かづつ釣れたし、浮標の下へ集まっているのを見ることが、細糸に産卵していることによつて、この季節にかなりのさんま群が居ることは認めていた。けれどもこれを目あてに網をやるうと思ひ立つほどの量とは考えてられていなかった。

ところがこのさんまあきす事件があつてから、ちょうど十年の後、私の念頭から消えていたさんまが再び私の眼前にはつらつと現われた。

対馬海峡の一带をいわし群を求めて遊弋していたときのことである。この日朝からさんまが盛んに飛んで

いるのを見たが、いわしは全く姿を見せなかった。夕方になって食べ料にさんまでもとろうかということになり濃い所を撰んで網を入れると、約二千メほどとれた。十二節の網であるが魚取り部分で締め付けてゆくと殆んど全部網目に刺さってしまった。毛皮に生えた毛のように、すき間なく刺した魚の重量は侮り難いものでこれを取り入れるのに大いに骨を折った。ちょうど戦時中のことなので引つ張りだこで売れた。これが二月中頃のこと、その日の魚群の範圍の広いことなどから刺網をやるなら

“富島”わかめブームに湧く

これはものになるといふ気がしたのである。

そこで資材難の折柄なので、アバも下駄屋をまはって桐の木の細いのを集め、これに孔をあけて手製で造らねばならなかった。家中煙にむせびながら焼きポット通しをしてアバをつくったのも今はほろにがい思い出となった。新しい網地はなかなか手に入らず、あらゆる伝手を求めて、房州千倉の古刺網を若干買入れて、丁度いわしの休漁期である四月から七月まで魚群と共に咸北まで北上してみようということになった。

はわかめの干場で埋り、わかめ一色に塗りつぶされた風景は、まことに壮観である。

いままでわかめの生産が皆無であつた、富島地先に、わかめ増殖が始められたのは昭和三十一年で、富島漁村青少年クラブが、冬期閑漁期対策として、北淡町から五万円補助を受け、わかめ礁の投石を行った。これが動機となつて、冬閑期の重要漁業でありながら、不安定ないかな

富島港沖出二〇〇米の漁場に、わかめが大量に成育し、富島の浜では総力をあげてわかめ漁に従事している。

三月二十五日頃から、本格的な漁が始まったが、四月二十日まで、わかめかめで六トン・二百七十万円の水揚げをしている。漁期中に一千万円を水揚げるとは漁協関係者の談である。多いときには、一日に一トンの乾わかめが生産されるが、富島の浜

ど漁をバックアップするためにはわかめ増殖熱が地元漁民間に高まり、町では県の補助を得て、わかめ礁の投石事業を、昭和三十二年、三十三年と続けて来た。この三年間の努力が本年見事に実を結んだわけである。

漁法は新兵器と称する、棒鋼製の桁を使い、漁場を曳き回して、わかめをむしり取っており、そのすさまじい獲り方には驚嘆のほかない。

わかめ増殖に努力してきたクラブ員や、心ある漁民は折角育てあげたわかめ資源の乱獲をおそれて、操業方法の自粛を叫んでいるが、ブームに湧く浜の空気は、そうした声に耳を貸しそうにない。

漁協で決めている操業制限は
1、操業時間—午前六時から午前九時まで。

2、桁の長さ—三米以内
3、わかめの抜売禁止（漁協の共販に乗せること。）

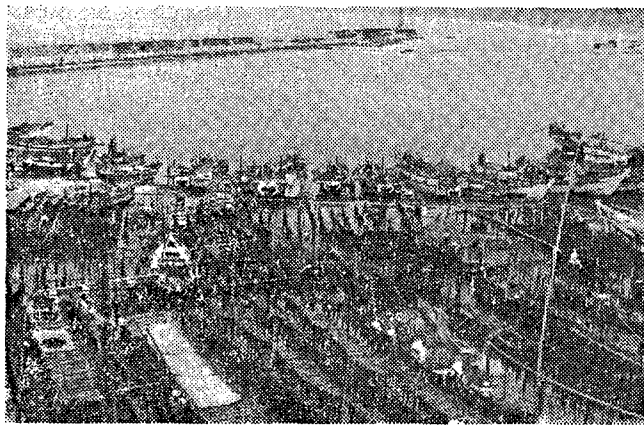
の三項目であるが、曳き上げられたわかめの芽株（成実葉）は、苺り取って、漁場に投入することを申し合せている。

富島のわかめは、内海側のわかめの不作で神戸中央市場では相当の高値を呼んでおり、上質のもので貳五百八十円、下値で四百円程度である

垂水わかめや阿閉わかめと劣らぬ価格であるが、品質の統一が充分でなく、中央市場では品質の管理を漁協に要望しているとのことである。

わかめブームに湧く富島の好況を継続させるには、わかめ資源の維持管理と製品の規格の統一と品質の管理に、一日も早く漁民が自力で乗り出すことが必要ではなからうか。

（水試）



富島における「わかめ」の乾燥風景

「スロー運転とシリンダー磨耗」

（ディーゼルを主として）

兵水試 杉 本 技 師

以前この欄に、新しいディーゼルを取付けて三カ月目に圧縮が悪くなつてライナーを取替えた人の話をお知らせしたことがある（当時I技術員が实地に診断した）。あとでいろいろ検討したところ、これは延縄業者であつたが、スロー運転に起因することが大きかったように考えられるのである。それだけでなく機関が新品の時は、シリンダー壁とリングの「なじみ」が悪いため、ピストン膨張を起してストップしたり、磨耗が早いのが通例であるが、三カ月目というのは余りひどいように思われるのである。

シリンダー磨耗の原因は（何度もいうことであるが）冷却水温度の低いことも大いに影響するが、小型漁船ではその殆んどがキングストンコックもついておらず、したがって冷却水の加減調整は困難であり、磨耗

防止にはむしろライナーに保温装置（D社ではライナーの外壁をポリエステルで巻いて保温している）等を考えた方が賢明の策といえるようである。実際私達が小型漁船の冷却水温度を測定してみても、現在の理想温度とされている四五度C〜五五度C位より遙かに低く、まして季節的にも、地域的にも海水温度は相当な差があり、水量加減を無視した運転であれば冷却水低温に原因する磨耗は自然現象とみられ、これは操業者自身で工夫して船体なり機関の改造を試みるより仕方がない。

シリンダーの磨耗の原因はこのように冷却水温度による鑄物の腐蝕磨耗の外に、新品当時によくみられる切削磨耗（金属面の表面を拡大してみるとノコギリ刃のように起伏がある）と、運転中に起る削磨磨耗の三つが考えられる。今回は主としてス

ロー運転による磨耗について述べてみるが、以前水産庁漁船研究室で発表された資料を参考として述べてみたい。

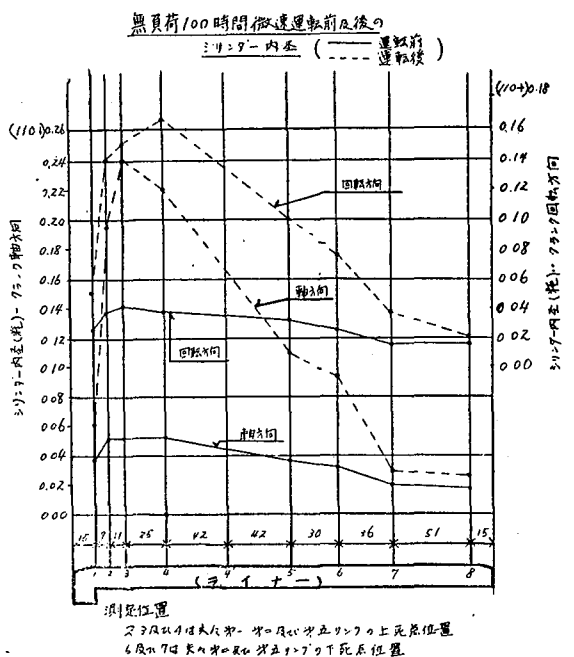
凡そ延縄漁業や曳縄漁業に限らず漁船機関は宿命的にスロー運転を強いられる場合が多い。もっともこう書いていくと、シリンダー磨耗はスロー運転だけに起因するように思われるフシもあるが、それは間違で高力運転による燃焼室の高温高圧も影響することは言を俟たない。大体エンジンというものは標準の出力及び速度に対して各部を調整してあるから、普通の船舶にくらべて漁船の場合には運転に無理をするのが多く、とくにスロー運転による操業が強いられるとすれば宿命といわざるを得ないのである。

内燃機関にはディーゼル、焼玉、電着の三つがあるが、シリンダーが磨耗して最も影響をうけるのはディーゼルである。空気だけを、圧縮比を極端に高くしてその圧縮熱で燃料に着火するのだから、シリンダーとピストンの間がスライディングしては、スタートが困難なばかりでなく、スタートしても出力の低下が著しい。その点焼玉や電着は少々この間隙が大きくなっても結構動いてくれるし

ディーゼル程ではない。よく「ディーゼルはスタートが困難でホイールが重くてとても老人や子供には振りきれない」といわれるが、ディーゼルの性能からいえば重い程圧縮が充分きいているのであって、軽くまわるのはエヤーがシリンダーとピストンの間を下部へぬけている証拠で十分出力を出しきっていないことなるのである。ディーゼル機関を取扱う場合はシリンダーの磨耗が最も重要視されるゆえんである。

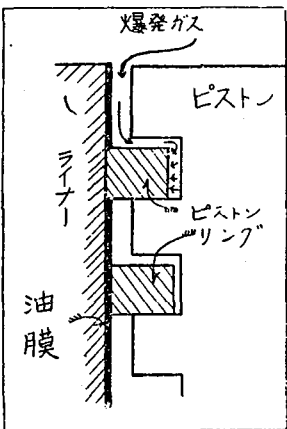
大体シリンダーは上部が主に磨耗し、下部は殆んど磨耗しないのが普通である。この実例を漁船研究室の実験結果から見てみることにする。使用されたエンジンの種類はDディーゼルで

型式 四サイクル縦型予燃焼室付
シリンダー内径 一一〇耗
ピストン行程 一五〇耗
標準出力 八馬力
標準回転数 毎分九〇〇回転
(註) 第一、第二リングにクロームメッキを施してある。(〇・〇一ミリメートル)
となつている。このエンジンを使用して無負荷、スロー運転(四九〇回転)で回してみるとシリンダー内各部の磨耗状況は別表のようになり、



上部が下部にくらべて磨耗していることがよく分る。

普通シリンダー内磨耗の最大の位置は、次図の如く爆発圧力がリングの裏からシリンダー壁を押しつけるので、第一リングが上死点における場所とされているが、本表ではむしろ第二リング位置の方が磨耗が大き



が、實際稼動する場合はそんなに長く長続運転することはなく、又漁場への往復は主として高速で走るから、高速、微速を交互に運転されるのが普通であり、前にも述べたようにこのエンジンでは標準出力八馬力標準回転数九〇〇回転に適したように各部が調整されており、とくに燃料噴射時期もこれに合うよう調整されているから、規定よりも相当スロウデ回せば着火が不安定になり、当然不完全燃焼を起して燃料中の炭素分(ガス)がシリンダー内に附着することになるが(ことに初運転時にはこの炭素の附着が著しい)この場合高速運転によって炭素が或る程度

くなつている。これは測定した計測器具の都合でなつたものである旨註釈がついている。又クランク軸方向と回転方向とは幾分磨耗量が違うのが普通である。「側圧の相違」この実験は連続百時間運転を二度に分けて二百時間運転した結果であるが、

払拭されて磨耗は減少するものと考
えられ、実際には前記の交互運転に
より磨耗度はもっと小さいものであ
るといえる。同じ条件における同研
究室の高速運転による実験資料をみ
ても、シリンダーの磨耗量は微力運
転のそれよりも非常に少ないことが
証明されている。その証拠に普通デ
ィーゼルでは内径で〇・七ミリ磨耗
すればライナーを取替えるようにな
っているが、第一表によれば上部附
近の最大磨耗量が二〇〇時間で約〇
・二ミリとなっており、通常ライナ
ーの取替時期とされている一、五〇
〇〜二、〇〇〇時間はとても保持で
きないということになってしまう。

以上大体スロー運転によるシリン
ダーの磨耗状況をのべたのであるが
高速運転にくらべてシリンダーとピ
ストンの間の油膜がきれることも考
えられ（水上スキートの原理で、スピ
ードを落とすとすぐ水中に没する）磨
耗を早めることは事実なのである。
おわりにこのような微速運転による
シリンダーの磨耗を防止し、その他
の弊害を少なくするために同研究室
で示された注意事項を記してこの項
を終りたい。

一、微速運転に伴って燃料噴射時期
を適当に変更し、着火時期を上死

- 点に対し適切にすること。
 - 二、冷却水温度を成るべく高くする
こと。（腐蝕磨耗の防止と、スロ
ー運転によるエンジンの温度下降
のための着火おくれ等を防止し燃
焼効率を上昇させる。）
 - 三、ピストンリングの回り止めをつ
けること。（リングとシリンダー
の当りのナジミをつけて圧縮作用
をよくする。）
 - 四、ピストンリングの取外しの際、
リングに変形をあたえぬ様一層工
夫すること。
 - 五、潤滑油こし器を一層有効なもの
とすること等。
- （兵水試 杉本技師）

わかめの採苗と養殖について

第五回水産業改良普及研究発表 全国大会より

発表者 三重県桃取青年団実業部

森 下 鉄 次

研究の動機

我々の住んでいる町は戸数二八〇
戸で、その約八割が漁業を営んでい
る。漁業内容は第一図の通り、揚操
延縄、蛸つば、一本釣、コウナゴ漁
漁鼠、ワカメ採取等であるが、二月
から六月頃まではワカメとコウナゴ
漁が主で、そのコウナゴ漁も近年不
漁であてになる漁業とは言えない。
残るワカメ採取も年によって豊凶の

差があり、昨年の如きは近年にない
良い発芽を見ながらアメフラシの大
繁殖によって食い荒され、期待され
たワカメの漁獲も少なく我々漁業者
への影響は大きかった。

しかし、当地方のワカメは中部地
方で最良のワカメの産地で、ワカメ
の成育には最も適した漁場である。
そこで当青年団実業部では中部地方
に於て未だ産業化の域に達していな
いことと、アメフラシが浮泳しない
所から被害が皆無とみてワカメの垂

(初図) 桃取町に於ける主な漁業の漁期

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
リ縄ぼりゴメ												
グフ本ウ												
ア延縄一コナワ												

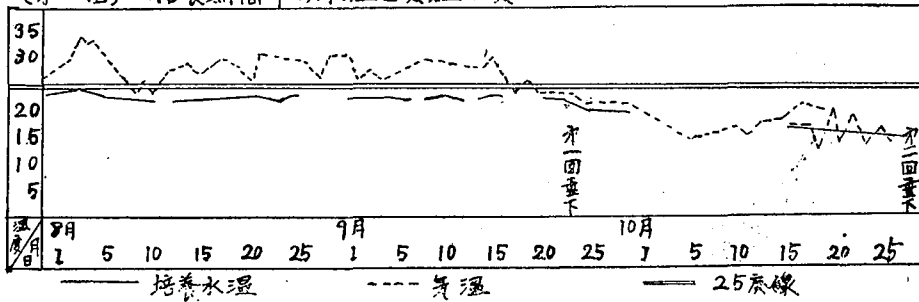
下養殖に着眼した。

試験の目的は夏期における種苗の
室内管理漁場への移植、垂下方法、
成育の適水深等、当漁場の環境にあ
った方法をつかむ事と、ワカメの早
期収穫、未利用漁面の利用である。
今回の発表は本試験の途中である
ため、人工採苗から漁場垂下迄に得
られた結果を中間発表の形で述べる

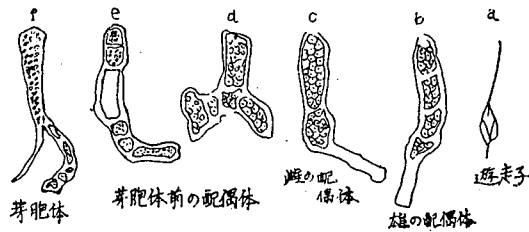
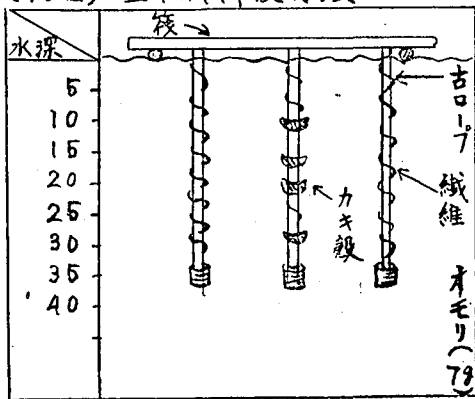
実験方法

化繊と貝殻に種子を付け、夏の間に室内培養で保護して育て、秋に海に入れる方法を選んだ。
五月十四日に答志漁場に於て若芽の遊走子を出す芽株を取って、数十分位陰干にして海水を入れた容器で

(第2図) 培養期間中の水温と気温の変化

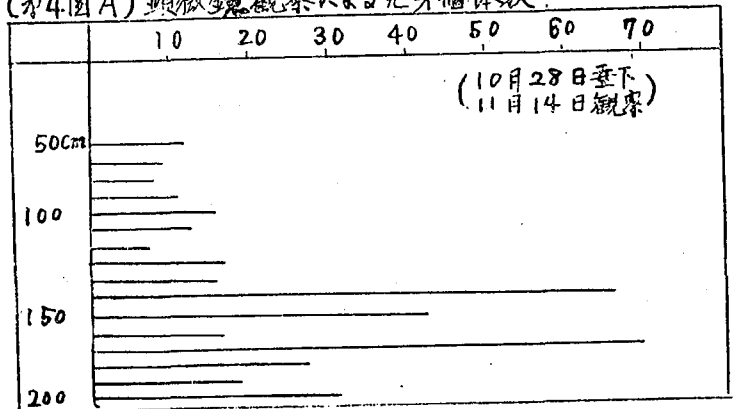


(第3図) 垂下材料及方法



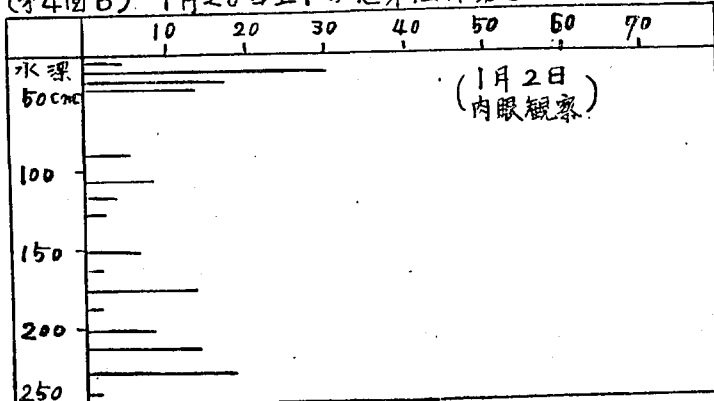
芽株から遊走子を五分間位放出させその中へ附着材料としてクレモナ及びナイロン繊維と貝殻を入れ、二〇分乃至三〇分位の間に充分胞子を附着させ、これを別の容器(一・五立

(第4図A) 顕微鏡観察による発芽個体数



入) にあらかじめ煮沸滅菌した水温一八・五度、比重二二度の海水に胞子を附着させた材料を入れ室内培養したのである。
培養方法
培養室には夏期に於ける水温の上昇を防ぐため、防空ゴウを利用し直射日光をさけ、あまり暗くない所で培養した。
培養期間中の変化は第二図に示した通り七月下旬になると水温が日々に上昇するので二五度以上昇らない

(第4図B) 9月28日垂下の発芽個体数



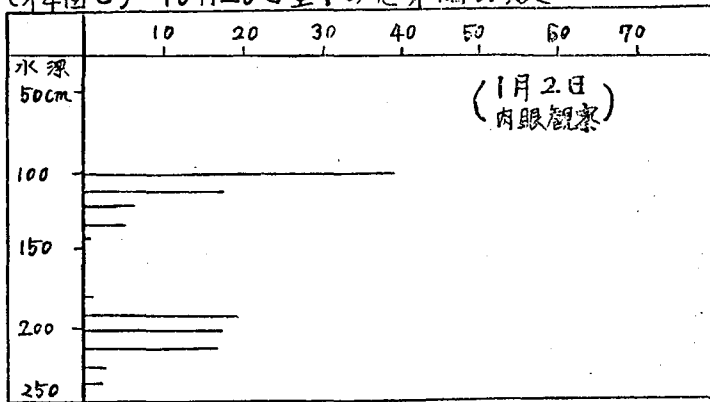
ように調節した。期間中の最高気温は八月二日で二五度まで上昇した。培養水の交換は月に一回の割合で六回交替をした。交替に当って注意したことは、水温を同一温度にするため煮沸滅菌した海水を培養室に入れ、四、五日後に取替えた。比重は二一・二度であった。
培養期間中の配偶体の変化
五月二十九日クレモナ繊維に変化しはじめた色は土色のようなであった変色は顕微鏡で観察した結果配偶体

であることがわかった。
八月四日水槽の上部に配偶体が附
着してきた。

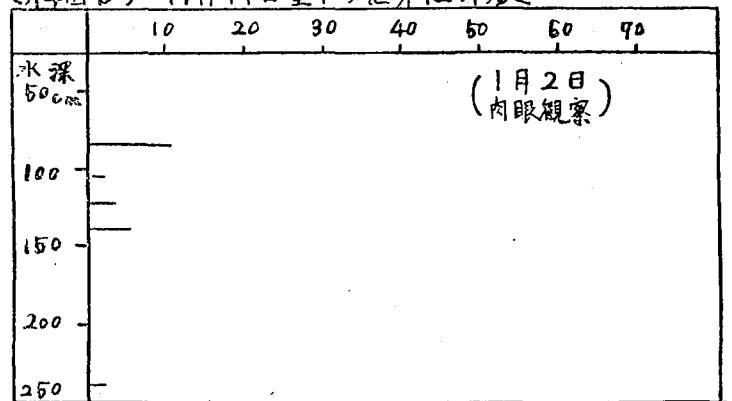
垂下時期の選定

培養水と海水が一定した九月二十
八日第一回試験垂下を行う。水温は
二一度、比重二三度。
十月二十八日第二回垂下を行う。
水温一九度、比重二三度。
十一月十四日第三回垂下を行う。
水温一六度、比重二三度。

(オ4図C) 10月28日垂下の発芽個体数



(オ4図D) 11月14日垂下の発芽個体数



垂下方法及び資材

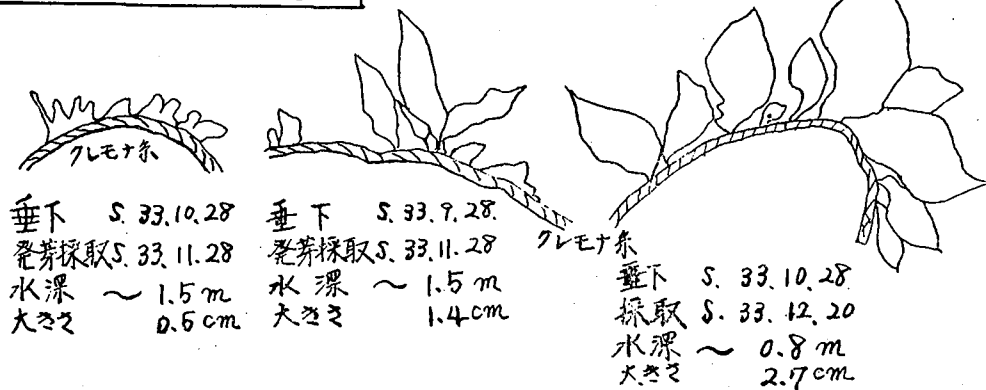
真珠筏を利用し第三図に示した様
に材料は真珠養殖の古ツリ線を利用
した。

発芽の状況

十月二十八日に垂下した繊維を十
一月十四日顕微鏡で観察しました結
果第四図Aに示し、第一回、第二回
第三回垂下した繊維を一月二日肉眼
で発芽個数を調べた結果は第四図に
示す。

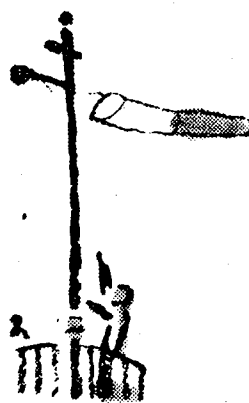
以上の結果、先ず夏期における種
苗の室内管理は、防空ゴウ利用で特
別な施設は必要でない事、移殖垂下
の時期は十月下旬が最もよく材料は
繊維で太目のものである事、また水

わかめの成長状態



深は海面から二米までの層に発芽し
生育する事がわかった。

今後の研究課題は現在、一日一糶
内外の速さで伸びてはいるが、早期
収獲が可能か、また品質による価格
で副業化できるかという点である。
これによって冬期利用海面二〇余万
平方メートルが活かされる上に、避寒した
真珠の空筏をそのまま利用できるの
である。尚現在わかめは二二糶程度
伸びている。



昭和34年1月中の海面漁獲量

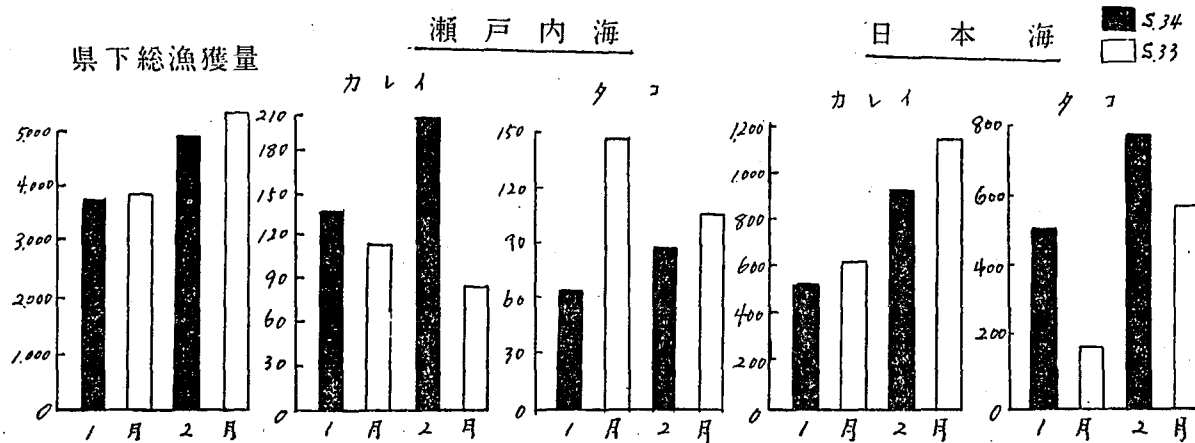
単位：トン

魚種	県 総 計				瀬 戸 内 海				日 本 海			
	34年	33年	増減量	率	34年	33年	増減量	率	34年	33年	増減量	率
総 計	3,839.7	3,879.9	40.2	99	1,460.5	1,406.7	53.8	104	2,379.2	2,473.1	△ 93.9	96
イ ワ シ	165.6	86.6	79.0	191	165.5	84.5	△ 81.0	196	0	2.1	△ 2.1	
イ カ ナ ゴ	75.9	27.8	48.1	273	75.9	27.8	48.1	273				
タ ラ	166.3	146.0	20.3	114					166.3	146.0	20.3	114
カレイ・ヒラメ	641.7	729.1	△ 87.4	88	134.2	117.3	16.9	114	507.5	611.8	△ 104.3	83
タ イ	13.2	18.4	△ 5.2	72	7.9	8.9	△ 1.0	89	5.3	9.5	△ 4.2	56
サ バ	0	6.8	△ 6.8						0	6.8	△ 6.8	
ア シ	5.9	20.4	△ 14.5	29	5.1	18.8	△ 13.7	27	1.0	1.6	△ 0.6	63
サ ワ ラ	1.0	2.0	△ 1.0	50	1.0	2.0	△ 1.0	50				
ブリ・ハマチ	2.8	6.5	△ 3.7	43	0	1.0	1.0		2.6	5.9	△ 3.3	44
ポ ラ	21.5	16.7	4.8	129	21.4	16.6	4.8	129	0	0		
ハ モ	3.6	0	3.6		3.6	0						
ア ナ ゴ	66.6	92.4	△ 25.8	72	66.4	90.9	△ 24.5	73	0	1.5	△ 1.5	
シ イ ラ												
サ メ	9.0	7.0	2.0	129	3.0	3.8	△ 0.8	79	6.0	3.2	2.8	188
ハ タ ハ タ	491.2	174.6	316.6	281					491.2	174.6	316.6	281
ニ ギ ス	43.2	224.9	△ 181.7	19					43.2	224.9	△ 181.7	19
その他の魚類	258.7	329.8	△ 71.1	78	148.9	204.1	△ 55.2	73	109.8	125.7	△ 15.9	87
(魚 類 計)	1,966.1	1,889.2	76.9	104	633.0	575.7	57.3	110	1,333.0	1,313.5	19.5	101
スルメイカ	152.6	325.9	△ 173.3	47					152.6	325.9	△ 173.3	47
その他のイカ	42.2	82.6	△ 40.4	51	26.9	56.2	△ 29.3	48	15.3	26.3	△ 11.0	58
タ コ	72.0	159.4	△ 87.4	45	60.9	143.3	△ 82.4	42	11.1	16.1	△ 5.0	69
エ ビ	62.3	74.1	△ 11.8	84	43.4	62.5	△ 19.1	69	18.9	11.6	7.3	163
カ ナ ニ	832.9	769.1	63.8	108	2.8	4.0	△ 1.2	70	830.1	765.0	65.1	109
ナ マ コ	55.2	82.3	△ 27.1	67	55.2	82.3	△ 27.1	67	0	0		
其他の水産動物	2.2	6.1	△ 3.9	36	2.2	6.1	△ 3.9	36				
(水産動物計)	1,219.4	1,499.4	△ 280.0	81	191.5	354.4	△ 162.9	54	1,028.0	1,145.0	△ 117.0	90
貝 類	382.2	423.2	△ 41.0	90	364.0	408.5	△ 44.5	89	18.2	14.7	3.5	124
藻 類	272.0	68.1	203.9	399	272.0	68.1	203.9	399				

(注) △は減 ○は漁獲量 500kg 未満 (漁獲量 500kg 以上は 1t に切上げ)

昭和34年 月別漁獲量と

昭和33年 月別漁獲量との比較



昭和34年2月中の海面漁獲量

単位：トン

魚種	海 区 年 度				瀬 戸 内 海				日 本 海			
	34年	33年	増減量	率	34年	33年	増減量	率	34年	33年	増減量	率
総 計	4,900.2	5,294.9	△ 394.7	93	1,989.4	2,134.6	△ 145.2	93	2,910.7	3,160.3	△ 249.6	92
イ ワ シ	78.5		78.5		78.5		△ 78.5		0			
イ カ ナ ゴ	548.1	931.0	△ 382.9	59	548.1	931.0	△ 382.9	59				
タ ラ	148.0	429.4	△ 281.4	34					148.0	429.4	△ 281.4	34
カレイ・ヒラメ	1,119.8	1,212.6	△ 92.8	92	209.0	88.0	121.0	238	910.9	1,124.7	△ 213.8	81
タ イ	7.3	10.2	△ 2.9	72	2.9	6.4	△ 3.5	45	4.4	3.8	0.6	116
サ バ		0							0			
ア シ		1.2	△ 1.2			1.2	△ 1.2		0			
サ ワ ラ												
ブリ・ハマチ	11.6	1.2	10.4	867					11.6	1.2	10.4	867
ボ ラ	7.4	10.0	△ 2.6	74	7.1	10.0	△ 2.9	71	0			
ハ モ	0	0			0	0			0			
ア ナ ゴ	71.9	73.8	△ 1.9	97	71.6	73.6	△ 2.0	97	0	0		
シ イ ラ												
サ タ メ	45.8	24.7	21.1	185	7.1	2.9	4.2	245	38.7	21.8	16.9	178
ハ タ ハ タ	765.9	555.0	210.9	138					765.9	555.0	210.9	138
ニ ギ ス	50.0	35.6	14.4	140					50.0	35.6	14.4	140
その他の魚類	276.2	239.7	36.5	115	157.3	153.5	3.8	102	119.0	86.2	32.8	138
(魚 類 計)	3,130.7	3,525.1	△ 394.4	89	1,081.7	1,267.0	△ 185.3	85	2,049.0	2,258.1	△ 209.1	91
スルメイカ	0	1.7	1.7						0	1.7	1.7	
その他のイカ	35.4	28.9	6.5	122	28.4	25.8	2.6	110	7.0	3.1	3.9	226
コ	104.3	128.1	△ 23.8	81	84.4	104.7	△ 20.3	81	19.9	23.4	△ 3.5	85
エ ビ	91.2	87.4	3.8	104	31.0	46.4	△ 15.4	67	60.2	41.0	19.2	147
カ ニ	758.9	807.5	△ 48.6	94	3.0	3.4	△ 0.4	88	755.9	804.1	△ 48.2	94
ナ マ コ	48.1	70.1	△ 22.0	69	47.9	70.0	△ 22.1	68	0	0		
其他の水産動物	3.8	9.3	△ 5.5	41	3.8	8.3	△ 4.5	46		1.0	1.0	
(水産動物計)	1,042.2	1,132.5	△ 90.3	92	198.6	258.6	△ 60.0	77	843.6	873.9	△ 30.3	97
貝 類	574.1	538.1	36.0	107	555.9	509.9	46.0	109	18.1	28.2	△ 10.1	64
藻 類	153.2	99.1	54.1	155	153.2	99.1	54.1	15	0			

(注) △は減 ○は漁獲量 500kg 未満 (漁獲量 500kg 以上は 1t に切上げ)

昭和34年1月・2月中の

海面漁獲量の概要 (兵庫県水産課)

昭和三十四年一月中の総漁獲量は、三、八四〇トンで前年同期の九〇%、過去五カ年(昭和二十九年〜三十三年)同期平均の一〇三%の漁獲であった。内海では前年同期に比し、カレイ類が二倍以上の漁獲であったが、イカナゴ(フルセ)や水産動物類の減少により九三%の漁獲にとどまり、日本海では、サメ、ハタ、ニギスが多かったが、タラ、カレイ類が少なかったため、前年同期の九二%の漁獲であった。

昭和三十四年二月中の総漁獲量は、四、九〇〇トンで前年同期の九三%、過去五カ年(昭和二十九年〜三十三年)同期平均の一〇三%の漁獲であった。内海では前年同期に比し、カレイ類が二倍以上の漁獲であったが、イカナゴ(フルセ)や水産動物類の減少により九三%の漁獲にとどまり、日本海では、サメ、ハタ、ニギスが多かったが、タラ、カレイ類が少なかったため、前年同期の九二%の漁獲であった。

われらの漁民銀行

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会 長 島 田 文 治 郎

本 所 兵庫県立水産会館内 直通電話⑥0193
但馬支所 香住町字中浜頭 香住125

購 買 品 は 漁 連 で

兵庫県内海漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

本 部 兵庫県立水産会館内 直通電話⑤3424—5
明石油槽所 明石市船町 明石3207
富島油槽所 北淡町富島 富島 66
飯屋出張所 淡路町飯屋 飯屋 59

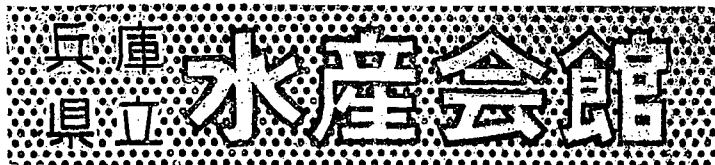
購 買 品 は 系 統 利 用

但馬漁業協同組合連合会

会 長 西 上 重 次

城崎郡香住町香住 電話香住154

神戸市兵庫区
新在家町



電話⑤8301(事務所)

電話⑤9563(宿泊所)